

日本音楽表現学会2008年度会長・理事選挙特集号

目次

	頁
1. [巻頭言] 学会の課題と展望 安藤 政輝2	
2. 統計から見た日本音楽表現学会—これまでの5年の歩み— 奥 忍 3	
3. 2008年度会長・理事選挙に向けて 長岡 功 6	
1) 選挙管理委員会の任務	
2) 選挙日程	
3) 選挙実施方法：選挙規定	
4) 選挙公示	
5) 会長・理事の推薦・立候補に関する手続き	
6) 会長・理事選挙各種様式	
7) 2008年度会長・理事選挙被選挙権有資格者：被選挙権有資格者名簿	
4. 国際学会のお誘い 安達真由美 11	
5. 新入会員紹介 12	
7. 会員によるコンサート案内 13	
8. 第6回大会の愛称募集中 14	
9. 事務局からの大変重要なお願い 14	
10. 学会からのお知らせ 15	
11. 『音楽表現学』バックナンバー購入方法 16	
12. 「コンサート等後援願」書式 20	
13. 「入会申込書」書式 20	
14. 役員名簿・編集後記 20	

日本音楽表現学会事務局

〒700-8530 岡山市津島中3-1-1 岡山大学教育学部 奥研究室気付
Tel. & Fax. 086-251-7647 E-mail: s-oku@cc.okayama-u.ac.jp
<http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~eeakita/kitayama/OHG-index.htm>



年会費の振り込み→郵便振込口座：01370=6=78225 音楽表現学会

日本音楽表現学会副会長 安藤 政輝（筆）

○ 発足当手を振り返って

日本音楽表現学会も発足以来5年、会員数も200名を超えました。これもひとえに会員の一人ひとりの努力の成果が実った（実りつつある）結果でしょう。やっと初期スタートダッシュの時期を終え、次代にバトンタッチ出来るようになりました。

学会の名称を考えていた時期、当初の「音楽表現学会」という案に対して、今は数十人の集まりであっても、将来、日本を代表する学会となった時にふさわしい名称として、頭に「日本」を付けようということになりました。私は日本音楽に関わっていますので、「日本・音楽表現学会」ではなく、「日本音楽・表現学会」だといって、皆で大笑いをしたのがつい昨日のこの様に思われます。

○ 課題と展望

1. 会員数の増加を図ること

幅広い分野にまたがる会員構成は、この学会の特徴の一つです。現在の会員が1名ずつ会員を増やせば、会員は倍増することになります。会員の紹介に対して、何らかの奨励策を考えてもよいかもかもしれません。

2. 会費徴収方法の再検討

現会員が100パーセント会費を納入すれば、会の運営は劇的に良くなります。会員の中には、会費を払う意思が無いという方はいらっしゃるでしょう。ついうっかり払い忘れてたり、自分の会費納入状況が分からないまま時が経ってしまっている、という場合がほとんどだと思います。これらの方々を含めて、確実に納入できる方法を検討中です。ぜひご協力をお願いします。

3. 『音楽表現学』と『ニューズレター』

現在は少ない年間予算の枠内で、削るところは

徹底的に削っても、学会の「顔」である機関紙『音楽表現学』および『ニューズレター』の年3回の発行には「糸目をつけず」とはいかないまでも、かなりの比重を置いてきています。編集委員の方々の熱意と努力の積み重ねの結果、年々投稿も増え、レベルも向上してきていると思われますので、今後もこのスタイルは守っていきたいものです。

とくに『ニューズレター』へは、若い方々の投稿をお待ちしています。

4. 大会・総会への参加を

年に1回開催される大会と総会（次回は2008年6月14日（土）／15日（日）、於昭和音楽大学新百合ヶ丘校舎）に一人でも多くの方が参加されることを願っています。

顔をあわせて人の輪を広げていくことが学会の長期的な発展への底力になっていくと思います。

大会には、会員でない方も誘うことが、学会を理解していただくきっかけとなるでしょう。

5. ホームページの充実とMLの活用

ホームページの運営は、当初から北山敦康さんが献身的に一人で担当してくださっています。会員専用の掲示板のようなものを作って、日常的な情報や意見の交換の場としたら良いと思いますが、これ以上の負担を考えると二の足を踏んでしまいます。どなたか若い方で（若い方に限定するわけではありませんが）協力していただける方があればありがたいのですが。ホームページの更なる充実と、その活用が望まれます。

発足以来2期余にわたる役員任期を終えるにあたり、これまでのご指導・ご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。

統計から見た日本音楽表現学会

—これまでの5年の歩み—

日本音楽表現学会事務局長 奥 忍

1) はじめに

日本音楽表現学会の2007年11月30日現在の会員数は221名です。この数は2003年5月3日の設立当時の3.3倍にあたります。学会がこの5年間にこれほど大きくなったこと背景には、入会された会員がこの学会で積極的に活動され、周りの方たちに入会を呼びかけてくださっていることがあります。一方では新しく入会された会員に、この学会についてさらに良く知って頂く必要もあるように考えられます。そこで、設立5周年となる現在、これまでの歴史を振り返ってみることにしました。会員のみなさまには、これまでを知ることによって次へのステップにしていただき、この学会でこれまで以上に活躍をしていただくよう願っています。

2) 会員数の推移

学会設立は日本全国からの様々な分野の音楽家・音楽研究者・音楽教育家、20名の発起人によって準備された。その年度の内に新学会誕生を知った方々から入会申し込みが相次ぎ、1年後には会員数は2倍を超える。その後も入会者が順調に増え、現在の221名に至っている。過去5年間の退会者は合わせて11名で、その主な理由は、退職、転職である。中に逝去された方が2名含まれている。この方々のご冥福をお祈り致します。

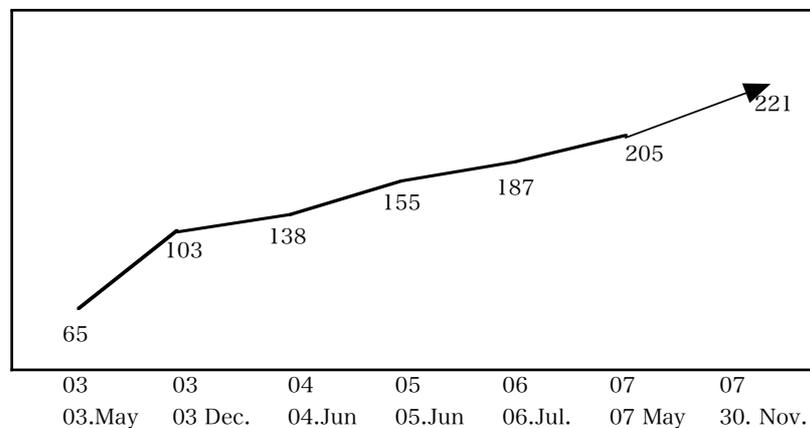


図1 会員数の推移

3) 学会員の専門分野

図2は入会時に申告された専門分野を分野ごとに分類して示したものである。複数の専門分野を持つ会員がとりわけ音楽教育関係と音楽学関係が多い。この現象はピアノや声楽分野にも見られる。この背景には、会員自身が興味・関心を複数分野に関して有していること他に、勤務の都合で複数分野にわたる授業を担当していることが存在するように思われる。西洋諸国では複数の専門分野で活動する音楽家が多いということから考えると、日本も西洋型に近づいてきているという見方もあるかもしれない。

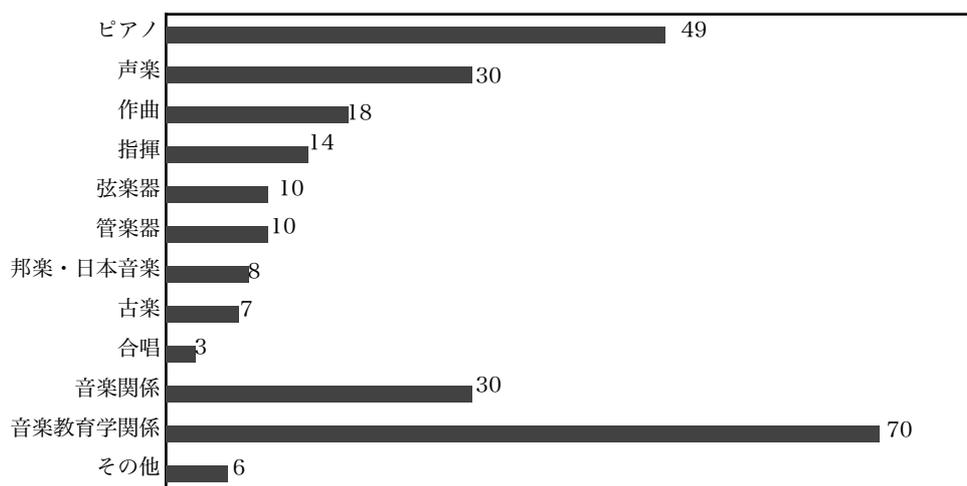


図2 会員の専門分野

3) これまでの大会における研究発表の件数

図3には「設立大会」から「火の国」大会までの会員の発表数をグラフで示している。発表形態は、研究発表、ワークショップ、パネル・ディスカッション、共同研究というように回を重ねる毎に多様化してきている。この図では、それらすべてを1本としてカウントした。発表件数はグリーン・アベニュー大会を機に飛躍的に伸びている。火の国大会では地理的な条件で、グリーン・アベニューには及ばなかったものの、継続研究も少なくはなく、研究の質の向上が見られた。第6回大会では、質・量共にさらなる充実と発展が期待される。

なお、このグラフの件数には含まれていないが、シンポジウムが開催されるようになったアクア・ブルー大会からは、企画・司会、パネリストなどの形でも会員の活動が行われている。

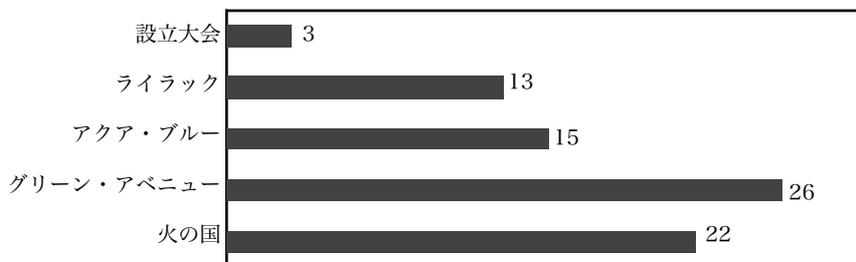


図3 これまでの大会の発表件数

4) 『音楽表現学』 Vol.1-Vol.5の掲載論文数

図4には『音楽表現学』の掲載論文数を示している。一見、論文数がVol.3まで減少しているように見え



図4 『音楽表現学』 Vol.1-Vol.5の掲載論文数

る。Vol.1には「寄書」が1本含まれている。「寄書」は「研究速報、討論、提案、学会に対する意見など」の種別であり、その後この種別への投稿は見られなかった。『音楽表現学』の種別については「原著論文」「評論論文」「研究報告」「奇書」「展望」「解説」「その他」が設けられている。さまざまな種別での投稿が待ち望まれる。

なお、日本音楽表現学会は日本学術会議によって正式に学術団体として認定されているので、論文は大学や各種研究機関において正当に評価される。数多くの会員の研究がこの学会誌で発表されることを願っている。

4) 日本音楽表現学会の緊急の課題

これまで日本音楽表現学会は年を追って順調に発展し、充実してきたように見える。しかし、問題が全くないわけではない。否、むしろ緊急に解決すべき問題に迫られている。それは年会費未収問題である。すでに図1に会員数の推移を示した。年会費は本来会員数の増加に比例すべきものである。ところが、現実には年会費の増加分は会員数の増加分を下回っている。大会における様々な企画、『音楽表現学』の発行には多大な経費を必要とする。年会費収入の中でもっとも大きな経費は『音楽表現学』発行に要する費用である。そのために、最近では会員の増加は未収年会費による減収、すなわち赤字を意味するようになってきた。

図5には年会費収入の推移と全納ならば収められているべき金額を重ねて示している。会員諸氏にはこのグラフの意味するところをご検討いただき、学会の健全運営のために是非ご協力をお願いしたい。

なお、学会設立当初には運営のための必要資金を調達するために数人の方から年会費を前納する形でご協力をいただいている。中には「定年までの分をとりあえず前納させていただきます」という会員もおられた。このような会員の学会に寄せる熱い思いによってはじめてこれまでの運営が可能であったのである。ここに心から感謝を申し上げたい。

なお、図5では、各年度ごとの年会費納入分のみを示しているのので、2008年度以後の前納分は示していない。会員諸氏には、設立から5年を経た現在では、すべての会員に年会費を納めていただければ、前納資金を必要としない状態まで学会が成長していることを認識していただきたい。

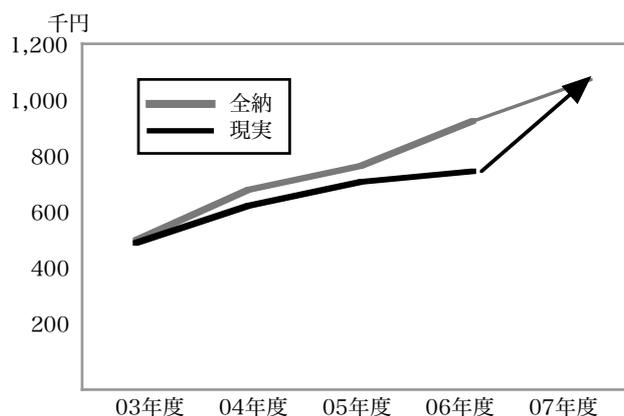


図5 年会費 納入状況 (全納の場合との比較)

5) おわりに

以上、事務局にある資料を基に、日本音楽表現学会の過去5年間の統計を見てきた。これを機に、会員のみなさまにこれまで以上のご協力をお願いいたします。

国際学会のお誘い

組織委員長 安達 真由美

"The 10th International Conference on Music Perception and Cognition"

第10回国際音楽知覚認知会議 (ICMPC 10)

日本音楽表現学会の後援に際して、ICMPC 10の事務局長から連絡が届きました。連絡内容には、同封のちらしよりもさらに最新情報が含まれています。音楽の知覚認知は音楽表現の基盤です。この分野の最先端の研究に国内に接することのできる貴重な機会です。国際会議に参加して音楽表現の研究をさらに深めませんか。以下に、ICMPC 10の事務局長からの連絡を全文お知らせします。

日本音楽表現学会員の皆様

このたび、本学会よりご後援頂くことになりました

"The 10th International Conference on Music Perception and Cognition"第10回国際音楽知覚認知会議 (ICMPC 10) について、開催のお知らせと発表申し込みサイト公開のご案内をさせていただきます。

会期：2008年8月25日（月）～ 8月29日（金）

主会場：北海道大学・高等教育機能開発総合センター
(札幌市北区)

副会場：モエレ沼公園「ガラスのピラミッド」

国際音楽知覚認知会議 (ICMPC) は、音響学、心理学、音楽学、情報科学、音楽教育学及び音楽療法をはじめとするこれらの学際領域に関する研究発表及び研究者間の交流を行うことにより、音楽の知覚・認知に関する国際的研究の進歩を図ることを目的としています。第1回目のICMPCは、1989年に京都で開催されました。その後は、1992年の第2回会議 (ロサンゼルス) 以降、北米のSMPC、ヨーロッパのESCOM、アジア太平洋地域のAPSCOMなどの音楽知覚認知研究者組織が、共同で2年に一度開催してきました。そして、2008年には節目となる第10回会議を、日本音楽知覚認知学会の主催により札幌で開催することとなりました。関連学会の会員の皆様には、この機会に是非参加をご検討下さるようお願い致します。

<発表申し込み要領>

Websiteの“Call for Paper” ご覧下さい。

<発表申し込みWebsite>

<http://www.slis.tsukuba.ac.jp/icmpc10/>

<発表申し込み期限> 2008年1月15日

<連絡先> icmpc10@psych.let.hokudai.ac.jp

発表申し込みは原則として上記サイトからのオンライン自動受付になります。

ICMPC10 Submissions Page:

<http://www.slis.tsukuba.ac.jp/icmpc10/>

上記サイトにアクセスの上、まずご自分のユーザアカウント登録を行ってください。(登録は数分で済みます。) ユーザ登録により、各自の個人ページが作成されます。発表申し込み等、すべての作業はこの個人ページから行われます。

申し込み〆切日までは、何度でも修正・削除・再投稿が可能となっておりますので、お気軽にアクセスしてみてください。

関連ページ:

ICMPC10 公式ページ:

<http://icmpc10.psych.let.hokudai.ac.jp/>

ICMPC10 blogページ:

<http://icmpc10.typepad.jp/>

日本音楽知覚認知学会:

<http://www.soc.nii.ac.jp/jsmpc/>

RenCon (ICMPC内イベント):

<http://www.renconmusic.org/>

主催: 日本音楽知覚認知学会(JSMPc)

共催: (財)札幌国際プラザ

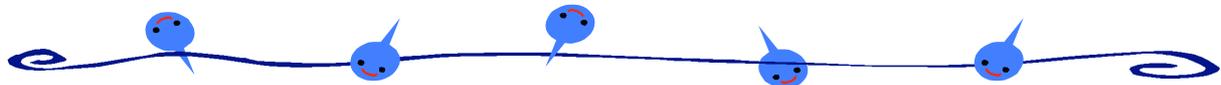
The Asia-Pacific Society for Cognitive
Sciences of Music (APSCOM)
演奏表情付けコンテスト Rencon 実行委員会
協賛：独立行政法人日本学術振興会
(財)ヤマハ音楽振興会
The Society for Music, Education and
Psychology Research (SEMPRE)
後援団体：北海道大学／札幌市／北海道
後援学会：日本芸術科学会
日本認知科学会
日本情報処理学会音楽情報科学研究会

日本認知心理学会
日本音楽表現学会
日本音楽療法学会
日本音響学会
日本音楽教育学会
日本音楽学会
* 共催・協賛・後援団体等の情報は2007年12月現在
以上、皆様のご参加をお待ちしております。

ICMPC 10 組織委員会委員長 安達真由美



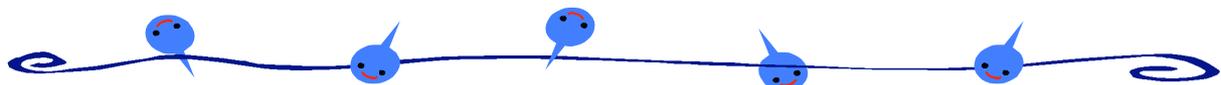
会員によるコンサート案内



秋の音楽祭

三重の子供と日本の歌

日 時：2007年11月3日 開演13：30
会 場：三重県総合文化センター中ホール
曲 目：越天楽今様、鶴の巣ごもり、笙、箏・ピアノのための「逍遙」他
出 演：橋本悦子（笙）、吉岡龍見（尺八）、管原美枝子（ピアノ）

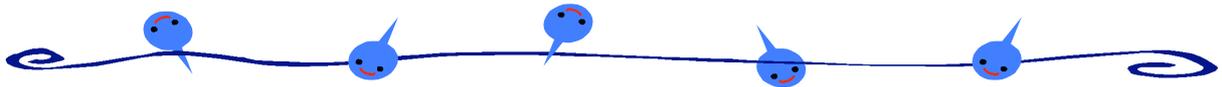


特別セミナー

コンテンツデザインのための現代音楽の可能性

(作曲家ジークムント・クラウゼとその世界)

日 時：2007年12月4日(火)18:30 - 21:00
会 場：九州大学大橋キャンパス音響特殊棟スタジオ（入場無料）
講 師：ジークムント・クラウゼ（作曲家・ピアニスト、国際現代音楽協会前会長）
対 談：ジークムント・クラウゼ v.s. 石田一志（音楽評論家、くらしき作陽大学音楽学部長）
通 訳：栗原詩子（九州大学大学院助教・音楽学）
司 会：中村滋延（九州大学大学院教授・作曲）
主 催：九州大学大学院先導的デジタルコンテンツ創成支援ユニット
後援協力：九州沖縄作曲家協会
問い合わせ：九州大学大学院芸術工学研究院音響部門 中村研究室 Tel.092-553-4553



福岡県・江蘇省友好提携15周年記念特別講演会

「南京の歴史にあらわれた古琴」

日 時：2007年12月18日 18:00～20:30

会 場：アクロス福岡7階大会議室（入場無料・要申し込み）

第1部 講演「南京の歴史にあらわれた古琴」

劉承華（南京音楽学院副院長）

第2部 対談 談：劉承華 v.s. 矢向正人（九州大学大学院准教授・音楽学）

司会：中村滋延（九州大学大学院教授・作曲）

申込先：〒815-8540 福岡市南区塩原4-9-1

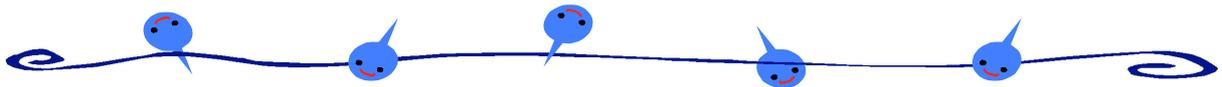
九州大学大学院芸術工学研究院音響部門 栗原研究室

「劉承華特別講演会」係 092-553-4556

主 催：福岡県、（財）アクロス福岡、（財）福岡国際交流センター

共 催：九州大学大学院芸術工学研究院

後 援：西日本文化協会、九州沖縄作曲家協会、日本音楽表現学会、他



安藤政輝リサイタル

「宮城道雄全作品連続演奏会10」

日 時：2008年2月22日(金) 19時開演

会 場：紀尾井ホール（東京都千代田区）

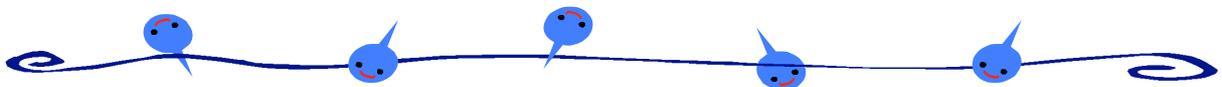
曲 目：《春の海》《高麗の春》他13曲

出 演：安藤政輝、安藤珠希、藤原道山、他

入場料：4,500円（全席指定）

問合先：Tel.03-3425-3939、

E-mail: ando_masateru@yahoo.co.jp（安藤）



巡礼の光

日 時：2008年3月9日(日) 15時開演

会 場：サラマンカホール（岐阜市）

出 演：亀井良幸、久野将健、安田 香、深貝美子、荒木善子



第6回大会の愛称募集中

日本音楽表現学会の大会にはこれまで以下のような愛称が付けられてきました。

設立大会→ライラック大会→アクア・ブルー大会→グリーン・アベニュー大会→火の国大会→?????

次の大会にはあなたが名付け親になってみませんか。

on：2008年6月14日（土）ー15日（日）@昭和音楽大学 新百合ヶ丘南校舎
（新宿駅から小田急線21分「新百合ヶ丘」駅前）

研究発表・ワークショップ・共同研究等申し込み〆切：2008年3月15日（土）



事務局から大変重要なお願いー連絡先・所属変更についてー

ニューズレターや『大会要項』が宛先不明で返送されてくるケースがあります。
連絡先・所属変更については学会事務局まで必ずお知らせいただくようお願いいたします。

学会からのお知らせ



『音楽表現学』Vol.5 刊行

今回も大部な『音楽表現学』をお届けします。編集後記にも記しましたが、応募原稿が多く、うれしい一方で、気力と体力、時間との戦いでもありました。投稿をお考えの方は、手続き、様式について『音楽表現学』Vol.5巻末の「投稿規定」および学会ホームページ（下記）をご精読ください。

<http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~eeakita/kitayama/toukougitei.htm>

ニュースレターへの投稿

ニュースレターは会員の交流の場です。音楽表現に関するご意見、掲載記事に関するご意見などを掲載します。今回は選挙特集のために残念ながら会員の投稿を掲載するスペースがありませんでした。しかし、巻頭言にもありますように、今後の発展に関してご意見を是非お寄せください。テーマはその他何に関してでも自由ですので、みなさまの投稿をお待ちします。

- ・研究ノート、随想など：全頁で23字×35行×2段で1600字以内でお願いします。
- ・新入会員の紹介：字数は150字以内。最近の関心事、研究に関することなどご自由にお書きください。なお、「よろしくお祈りします」などの常套句は削除します。
- ・会員によるコンサート案内：タイトル、日時、会場、入場料、（出演者）、曲目、連絡先をお知らせください。企画等で趣旨が必要な場合には80字以内でお願いします。
- ・原稿はwordを用い、メールの添付書類でお願いします。受付は随時、送り先は学会事務局です。

学会の会員サポート制度をご活用ください

- ★ 研究発表の場の一つが機関誌『音楽表現学』です。本学会は「日本学術団体」の広報協力団体です。『音楽表現学』に論文が掲載されると、大学などでは「査読付学術論文」としての評価を受けます。年度末などに業績の報告をされる際には、その旨をお記し下さい。
- ★ 大会の口頭発表は、日本音楽表現学会ならではの表現力を駆使して、文字だけでは伝えられない音声を用い、これまでの研究を発信できる場、それを参加者一同が共有できる場です。会員自身の音楽表現の創意や工夫、実践を披露し、その妥当性を問うワークショップなど、日本音楽表現学会ならではの生の音楽表現を含めた発表の機会をご利用下さい。
- ★ ニュースレター「コンサートのご案内」では、会員による各種の演奏、ワークショップ、イベントなどの活動紹介を行います。これらの活動を学会は「後援」します。みなさまの活動をニュースレター最終頁の「後援願」の様式で、どしどしお寄せ下さい。
- ★ 「新刊案内」では、会員による刊行物の紹介を行います。上梓されたらお知らせください。
- ★ その他、所属されている他学会の情報などもお寄せ下さい。



『音楽表現学』バックナンバー購入方法



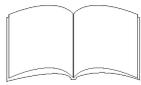
必要な方はメールで事務局までお申し込みください。

以下の代金は、到着後郵便振替でお願いします。

会員価格：Vol.1～Vol.3は1部1500円+送料、Vol.4とVol.5は1部3000円+送料、

一般価格：Vol.1～Vol.3は1部1500円+送料、Vol.4とVol.5は1部3500円+送料、

大学図書館などへの納入については事務局にお問い合わせください。



『音楽表現学』Vol.1～Vol.4掲載論文・記事一覧



Vol.1 掲載論文・記事

- ・『音楽表現学』創刊によせて

中村 隆夫

【原著論文】

- ・パフォーマンスにおける時間的な区切りや時間的な間の規則性とその確立プロセスについての分析的研究
— “はざま”と“かたまり”の量的時間，その美的価値観を手がかりにして—
- ・戦前の唱歌遊戯に見る表現教育—『改正体操教授要目解説』（1936）を中心として—
- ・和歌朗詠に見るリズム操作—百人一首朗詠を中心に—
- ・ドビュッシーの歌曲の本質—音楽表現学的視点による声の探求—

新山王政和

鈴木慎一朗

奥 忍

中村 順子

【研究報告】

- ・ラウテンクラヴィーア的设计諸元と結果
- ・伴谷晃二作曲『カーラ・チャクラの風，バリトン，尺八，三絃のために』（2002）の創作過程について

山田 貢

伴谷 晃二

【寄 書】

- ・「日本音楽表現学会に期待すること」

深井 尚子

【設立大会報告】

<基調講演>音楽表現の意味と創造的解釈をめぐって

西山 佑司

<研究発表>

- ・バッハとラウテンクラヴィーア—失われた楽器を求めて
- ・パフォーマンスにおける時間的な区切りとしての間の規則性と，その確率プロセスについての分析的研究
- ・感情表出のための一考察—G.サイドラーの<歌唱技法>を中心に—

山田 貢

新山王政和

内田陽一郎

Vol.2 掲載論文・記事

- 『音楽表現学』Vol.2によせて

中村 隆夫

【原著論文】

- ・図形楽譜を用いた即興演奏による表現の新たなる可能性
—MIDI上方を媒介とする音楽とコンピュータ映像の統合—
- ・ベートーヴェンはどのようにルドルフ大公を見送ったか
—ピアノソナタOp.81a 《告別》とポストホルン—

小畑 郁男

中村 隆夫

・音楽身体表現集団 The Pacific Eels の挑戦—「グラマーなボディ」に代わる芸術活動への道—小西 潤子

【資料論文】

・オルガンからピアノへ—師範学校におけるオルガン・ピアノ指導の変遷— 鈴木慎一郎

【研究報告】

・「こもりうた」の音楽表現—中学校における授業実践への提案— 加藤 晴子

【第2回大会<ライラック大会>報告】

<基調講演> 異文化から見た音楽表現の広がり 谷本 一之

<研究発表>

・ルドルフ大公はどのようにウィーンを離れたか 中村 隆夫

・「言語の拒否」から「言語の不可避性の洞察」へ 阿部亮太郎

・小学校におけるアイヌ民族の音楽文化学習 目黒 稚子

・学会における子どもの音楽表現 鈴木慎一郎

・指揮経験の多寡による基本的な指揮動作の違いに関する分析的研究 新山王政和

・指揮法で学ぶ音楽表現の基礎 谷口 雄資

・ホロビッツによるムソルグスキー作曲の「展覧会の絵」の編曲が演奏者に及ぼす生理学的効果について

坂東 肇・一橋 和義

・保育士養成校における教育活動としてのオペレッタ・ミュージカルの一考察 山田 克己・土門 裕之

・サイバーキーボードとしての電子オルガン 阿方 俊

・音楽身体表現集団 The Pacific Eels の挑戦 小西 潤子

・語られる言葉から詠われる言葉へ 奥 忍

・スキル獲得のプロセスと音楽表現 北山 敦康

・声の即興演奏 寺内 大輔

Vol.3 掲載論文・記事

[原著論文]

・唱歌教育におけるわらべうた曲集の意味—教材化への視点を中心に— 権藤 敦子

・遠山一行の武満徹論について—「言語の拒否」から「言語の不可避性の認識」への変化の洞察— 阿部亮太郎

[資料論文]

・国民学校発足時の師範学校における鑑賞指導

—『標準師範学校音楽教科書』の分析と香川県師範学校の事例を中心に—

鈴木慎一郎

[第3回(アクアブルー)大会報告]

<基調講演>

・筑前琵琶の表現と技法—超自然描写をめぐる— ギニャール・旭西

<シンポジウム>

・静岡の茶歌再創造と現代的奏演—市民参加型をめざして—

小西 潤子・大槻 寛・柳沢 信芳・中村羊一郎・須山由利子・吉田 直美

<パネル・ディスカッション>

・作曲家における異文化受容 安田 香・佐野 仁美・高久 暁・阿部亮太郎

<研究発表>

・身体動作を伴った子もり歌の表現学習 今 由佳里

・歌唱目的と歌唱表現の関係 加藤 晴子

・《最後の歌》の研究 河本 洋一

・日本におけるH. ルニエの《ハーブ教程》の有効性について	茂木 美和
・楽譜から音楽を創りだそう！	谷口 雄資
・子どものイメージング活動を核に据えた授業実践の試み	新山王政和
・師範学校における鑑賞指導	鈴木慎一郎
・ピアノ演奏におけるブラインド・タッチ習得に関わる考察	山田 啓明
・電子オルガン副科学生によるピアノ協奏曲コンサート	阿方 俊
・ベートーヴェン後期作品群への過渡的作品の考察	深井 尚子
・三善晃の音楽における意味生成の契機としての差異と、音楽的時間のあり方	阿部亮太郎
・国境を越えて変容する音楽	阿部 祐治
・フラットシンギングから＜三味線の糸の上に乗る＞シャープシンギングへ	村尾 忠廣
・ミュージカル活動における指導体制改革とその効果	山田 克己・川端 美穂・岡 健吾・土門 裕之
・ミュージカル活動の人間力育成効果	川端 美穂
・モーツアルトのヴァルター・ピアノによるモーツアルト	山名 敏之

Vol.4 掲載論文・記事

[原著論文]

・昭和戦前期の演奏界における近代フランス音楽の受容	佐野 仁美
・ベートーヴェン後期作品群への過渡期的作品の考察	深井 尚子
・ピアノ指導者の子どもに対する期待・指導とジェンダー	武知 優子・森永 康子
・「郷土の民謡」の音楽的価値と教材としての有効性—秋田民謡を取り入れた授業の分析を通して	佐川 馨
“Finfer-walking Method”（指歩き奏法）の提言—初心者から上級者までを対象に—	田島 孝一

[評論論文]

・《フィガロの結婚》のカリカチュアとしての《ドン・ジョバンニ》 —オペラのスコアに織り込まれたモーツアルトの機知	後藤 丹
・アルフレッド・コルトーの音楽表現についての一考察 —C. フランクの「ピアノ五重奏曲へ短調」を通して—	坂東 肇

[資料論文]

・師範学校における聴覚訓練—国民学校芸能科音楽講習との関係から—	鈴木慎一郎
----------------------------------	-------

[研究報告]

・日本歌曲創作における試み—作曲と演奏の視点から—	小畑 郁男・豊田 典子・深井 尚子
・気候と連携させた歌唱表現学習—小学校での実践をもとに—	加藤 晴子・逸見 学伸・加藤内蔵進

[第4回（グリーンアベニュー）大会報告]

<基調講演>

・これからの演奏家の理想の姿	五嶋 みどり
----------------	--------

<シンポジウム>

・音楽家の活動—コミュニティー・エンゲージメント—	奥 忍、五嶋 みどり、津上 智実、松本 勤
---------------------------	-----------------------

<ワークショップ>

・バッハの無伴奏曲の編曲	山田 貢
・尺八って何なの？	鈴木 昇畝
・義太夫を語ってみよう—表現してこそおもしろい“語り物”への誘い	鶴澤 友珠

<パネル・ディスカッション>

＜研究発表＞

- ・ “指歩き” ノススメーFinger-walking Methodの基本理念ー 田島 孝一
- ・ 管楽器の弱音効果と演奏者への心理的影響についてーサクソフォン用消音器の開発を通してー 北山 敦康、濱永 晋二
- ・ 楽器が生まれる背景と作品の時代様式ーバロック音楽と現代音楽の狭間でー 長瀬 正典
- ・ ピアノ演奏における鍵盤楽器のキーに関する一考察ー現在のキーに至る歴史の変遷ー 堀田 光
- ・ K.511とレオポルドの死との関連性ーピアニストの立場からK.310と比較してー 原 佳大
- ・ 《フィガロの結婚》のかりかチュアとしての《ドン・ジョヴァンニ》
ーオペラのコアに織り込まれたモーツアルトの機知ー 後藤 丹
- ・ 1920年代前衛映画を「動く図形楽譜」として用いた作曲法
ーハンス・リヒター《リズム21》の解析をもとにー 村上 理恵
- ・ 歌曲における表現の研究 小畑 郁男、豊田 典子、深井 尚子
- ・ 秋田県羽後町西馬音内の盆踊りの動作パターンの抽出 桂 博章
- ・ 「郷土の民謡」の音楽的価値と教材としての有効性ー秋田民謡を取り入れた授業の分析を通してー 佐川 馨
- ・ 昭和戦前期の演奏界における近代フランス音楽の受容ーフランス派ピアニストを中心にー 佐野 仁美
- ・ 西洋音楽と他の音楽を同列に考えようとする際の注意点について 阿部亮太郎
- ・ 黒沢隆朝が目指した音楽表現ー「音楽教科書の大家」としての側面からー 鈴木慎一郎
- ・ 電子オルガンを用いたスコアリーダーディング奏法の一考察
ー電子オルガン主科学生のアンサンブルを通してー 阿方 俊
- ・ ミュージカル活動における指導体制改革とその効果（2006）
ー拓殖大学北海道短期大学の事例からー 土門 裕之、山田 克己
- ・ 保育士養成校における教育活動としてのミュージカルに関する一考察
ーキャスト以外の学生の取り組みに着目してー 岡 健吾
- ・ ミュージカル活動の人間力育成効果（2）ー学生への質問紙調査からー 川端 美穂
- ・ 保育士養成校における主体的音楽表現を志向する授業構想に関する一考察
ーピアノ実技指導を通してー 伊達 優子
- ・ 日本語歌唱における発声と発音の統合的教授法の検証的研究
ー幼児教育者養成の現場に見る課題の整理ー 河本 洋一
- ・ グループダイナミクスを活かした「イメージングを通して音楽表現を作り上げる活動」の紹介
ー問題解決の段取り力を育む実践例ー 新山王政和
- ・ 小学校における音楽表現学習の試行ー「水」に関する音楽表現ー 今 由佳里
- ・ 音楽と気候を連携させた歌唱表現学習ー小学校での実践をもとにー 加藤 晴子、逸見 学伸、加藤内蔵進



(様式)

コンサート等後援願
日本音楽表現学会の後援をお願いします。

氏 名： _____
所 属： _____
コンサート等の名称： _____
コンサート等の趣旨： _____
主な内容： _____
期 日： _____
会 場： _____
連 絡 先： _____

(様式)

日本音楽表現学会入会申込書
日本音楽表現学会に入会を申し込みます。

氏 名： _____
専門分野： _____
住 所： _____
所 属： _____
連絡先： _____
連絡先電話番号： _____
連絡先Fax.番号： _____
e-mail アドレス： _____
推薦者名 (学会員・1名) _____
音楽表現学会に期待されること。ご意見等：

ニューズレターの「新入会員のご紹介」欄のための原稿執筆のお願い

日本音楽表現学会ではニューズレターで新入会員の紹介を自己紹介の形式で行っています。申し込みと同時に原稿を送っていただくと、連絡や編集作業が順調に進むように思われます。ご協力をよろしくお願いいたします。

- 1) 自己紹介の内容：以下の項目の中から適宜選択して、文章にしてください。
なお、「よろしくお願いします」などのご挨拶用文言は省きますので、あしからずご了承下さい。
 - ・所属 ・専門 ・音楽表現について思うこと ・この頃思うこと
 - ・モットー ・夢 ・ホームページアドレス、等々
- 2) 字数：150字を超えない程度でお願いします。
- 3) 〆切：入会申込書と同時に提出ください。
- 4) 送付方法：メールの本文またはワードの添付。メールをお使いにならない方は郵送でお願いします。
- 5) 宛先：s-oku@cc.okayama-u.ac.jp

日本音楽表現学会 役員

会 長：中村 隆夫
副 会 長：安藤 政輝, 奥 忍
理 事：川口 容子, 権藤 敦子
佐々木正利, 森川 京子
会 計 監 事：若井 健司, 加藤 晴子
編集委員長：杉江 淑子
副委員長：小西 潤子
委員：後藤 丹, 小畑 郁男
佐野 仁美, 谷口 雄資

編 集 後 記

地球温暖化による異常気象でいたるところ歯車が狂ってきたように感じられます。猛暑の夏がいつまで続くことかと思っていると、秋を経ずして冷たい北風が吹きすさんでいます。食べ物も変ならば、それを売る人、作る人も信じて良いのやら悪いのやら判断ができません。アメリカン・ネイティブの人たちは3世代先まで考えて行動すると聞いたことがあります。それに対してとりあえず明日のことだけ考えている私はちょっと寂しい。そこで、この学会の将来のことを考えるために、この号ではまず過去を振り返ってみました。会員のみなさまとも是非一緒に語り合しましょう。 (奥 忍)